



エコシステムアカデミー

「エコシステムアカデミー」2011年の取り組み状況についてご紹介いたします。

定点観測カメラの設置

2月25日に村火社有林に定点観測カメラを設置しました。1時間毎にシャッターが切れる仕組みとなっており、萌芽更新の様子や、天候、四季の移り変わりを記録し続け大活躍しております。



定点カメラの映像



(3月30日)



(6月23日)



(7月27日)



(9月13日)



(11月14日)



(12月26日)

東日本大震災

3月11日東日本大震災が発生。
幸い人的な被害や、社有林に被害はありませんでしたが、白河事業所、堀川ダムからの林道の落石、炭焼き釜の崩落等大きな被害をもたらしました。



(白河事業所)



(林道の落石)



(すみ焼き釜の崩落)

植樹の準備、苗床作り

一昨年の秋に拾ったどんぐりや、とちやぶなの実を発芽させたものを、掘り起こした苗木と共に社有林の一面に苗床を作って移植しました。3～5年育てて植樹に使用するものです。沢から水を運んだり、肥料を与えて大事に育てております。



がんばろう ふくしま in にしごう

6月12日西郷村風評被害対策事業実行委員会の主催で、『福島、西郷は風評被害にまけません！「安心」、「安全」、「応援」をスローガンに、明日のため、これからの為に』復興イベントが開催されました。



(会場のグランドエキシブ那須白河)



(日本野鳥の会柳生会長、「エコアカ」板倉校長、佐藤村長)

日本野鳥の会の関東各地から駆けつけて頂いた会員約60名の方にビジターセンターを視察していただき「エコシステムアカデミー」の概要についてご説明しました。



日本野鳥の会柳生会長、大倉西郷村副村長には村火社有林にお立ち寄り頂き、記念の植樹をして頂きました。



横浜自然観察の森視察

横浜自然観察の森は神奈川県と環境庁の助成により1986年に開園した横浜市の施設です。横浜市から委託された、日本野鳥の会のレンジャーが常駐され、環境教育、環境管理、環境調査の企画運営等にあたっておられます。7月27日に訪問し、施設や運営、レンジャーの業務についてお話を伺いました。



11月26日には、東京大学名誉教授太田猛彦先生と、「エコアカ」板倉校長も視察訪問されました。



野鳥調査、植生調査

東日本大震災の影響から、今年度の活動は大きな制約を受ける事となりましたが、日本野鳥の会白河のみなさんのご協力で、野鳥調査と植生調査は継続して行いました。
植生調査は 1m 四方の標準地の中で、植物の数量や成長を 1 年間を通して調査しました。

野鳥調査



(8 月 29 日)



(10 月 31 日)



植生調査



(1m 四方の調査地)



(8 月 29 日)



(10 月 31 日)

鮫川村、東京農業大学の取り組み視察

8月22日鮫川村と東京農業大学が鮫川村村有林を使って実習している所を現地訪問してまいりました。鮫川村と東京農業大学が協力して、間伐した跡地に植樹したり、間伐材を利用して橋を架けたり、柵を作って公園を作る実習をしており、村と大学との協力関係が印象的でした。今後、相互訪問や、情報交換等協力関係を構築して行きたいと考えております。



台風被害

9月には大型の台風15号の影響で林道の一部に土砂崩れが発生しました。



放射線量調査と除染に向けて

西郷村役場より放射線量計をお借りし、村火社有林の主な地点、ビジターセンターについて定期的に放射線量の測定を開始しました。除染等については、まだ具体的な方法が決定しておりませんが、落ち葉掻き等を実施し、その効果についての検証も開始しております。



エコアカ新体制について

平成24年1月1日付けで、三菱製紙の組織が変更となり「エコシステムアカデミー」は「社長室」から「総務人事部」に移管される事となりました。

「エコシステムアカデミー」の新体制は

顧問 徳田 俊一（三菱製紙株 顧問）

会長	野澤 浩史（三菱製紙株 常務取締役）	校長	板倉 完次（三菱製紙株式 常務取締役）
副会長	大川 直樹（三菱製紙株 総務人事部長）	*SI	桂 徹（農学博士・環境学環境カウンセラー）
副会長	井上 信一（三菱製紙株 白河事業部長）	〃	三崎 孝平（森林インストラクター）
室長	高橋 俊介（三菱製紙株 エコシステムアカデミー室長）	〃	高田 雅雄（森の案内人・自然公園指導員）

事務局 高橋 俊介（三菱製紙株 エコシステムアカデミー室長）
篠崎 文彦

*SIはシニアインストラクター